

小規模多機能自治の 取り組みについて

来年4月からスタートする「小規模多機能自治」の手法を用いた住民自治に向けて市では、

①これまで自治振興会、公民館、地区社協の3団体でそれぞれ活動していた体制を一本化し、課題に応じた部会を設立する。

②公民館を(仮称)コミュニティセンター化し、生涯学習以外の課題解決事業にも積極的に取り組む。

③事務局を強化(常勤の事務局員を地域で採用)し、地域課題解決事業に取り組む体制をつくる。

の3点を基本とした体制づくりなどを進めています。これまで市内31地区まるごと意見交換会や地区の勉強会などで説明を重ねてきました。今後は、各地区での協議の進捗状況に応じて、個別にサポートしていきます。

これまでの組織の体制について

これまでの自治振興会を中心とした住民自治組織は、地域活動の中心として大きな役割を果たしてきました。しかし、人口減少と高齢化が進む今、現在のイベント中心の活動内容では、地域住民が求めるサービスをこなすのは困難です。

これまでの組織の体制には、次のような特徴が挙げられます。

①会合には基本的に世帯主が出席するため、男性の年配者による発想で物事を考える。

②会合の内容を家族に伝えることが少ないため、女性や若者の考えが反映されることが少ない。
③代表者や役員が持ち回り(輪番制)のため、新しいことに積極的に取り組むことが難しい。

これから求められる

組織の体制について

①様々な世代が関わる機会をつくりましょう！

地区には子ども、お年寄り、男性、女性など様々な立場の人が住んでいます。様々な世代が関わる機会をつくり、どのような意見を持っているかを把握しましょう。

意見を聞く方法としては、子どもからお年寄りまでを対象とした全住民アンケートの実施が有効です。

②地域の課題を解決する方法を考えましょう！

アンケート実施後は、その結果をしっかりと検証・分析することが重要です。地域で課題を解決する方法を考え、まずはやってみましょう。また、アンケート結果は住民に公表し共有することが大切です。



Q&Aを公開しています

南砺市ホームページでは、小規模多機能自治コーナーを設け、質問にお答えしています。

③地域課題ごとにテーマを設け議論を重ねましょう！

課題を深掘りすることで、みんなでアイデアを生みだしましょう。

例①

「子どもを放課後に預かって欲しい」など、子育てをしやすい環境を求める意見が多かった。

地域で預かり保育をやってみよう！

安心して働きに出られるかも。

例②

近所のお店が無くなり買い物に困っている。

地域住民の力で店舗を再開してみよう！

地域の人々がつくったものを販売することで、「地域で稼ぐ」ことができる。困り事も相談でき、交流の場ができるかも。

例③

車の免許証を返納して交通手段に困っている。

地域住民でサロンやスーパーなどへの送迎をしてみよう！

お年寄りの外出する機会が増えるかも。

このように地域によって課題や解決方法はまちまちです。まずは小さなことからでも「こんなふうになれば良いなあ」と考えながら「やってみる」と、そして住民一人一人がやる気を発揮できる仕組みづくりを進めることが大切です。

問い合わせ

南砺で暮らしませんか課 協働のまちづくり係
☎ 2037